

6-10 東海地方におけるラドン観測 (XXI) Radon Observation in the Tokai district (XXI)

東京大学大学院理学系研究科
Graduate School of Science, University of Tokyo

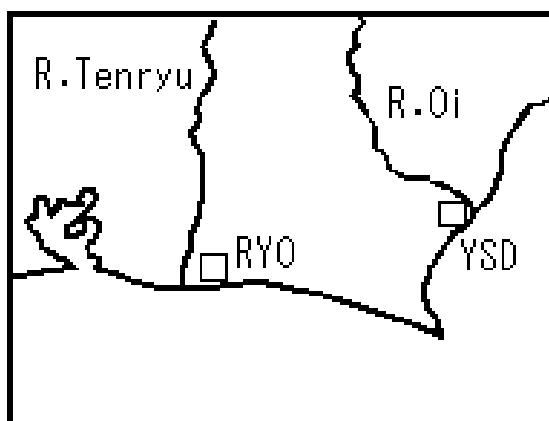
前報¹⁾ に引き続き、東海地方における地下水のラドン濃度の連続観測結果（2003年6月～2004年5月）を報告する。

観測点は第1図に示す竜洋（RYO）、吉田（YSD）の2地点である。第2図は、RYO、YSDにおける、1時間毎のラドン濃度（積算値）の24点移動平均値の時系列である。図の右上には、1998年以降のラドン濃度の観測値を示してある。OMZでは現在観測を停止している。

RYO、YSDでは1週間程度の短周期の変動が卓越しているが、これは人工揚水の影響であると解釈される。YSDのラドン濃度は1999年までは大きく変動していたが、2000年以降は落ち着いた変動を示すようになった。2004年に入って見られるRYOにおけるカウント値の不整合点はメンテナンスによる感度回復の影響である。

参考文献

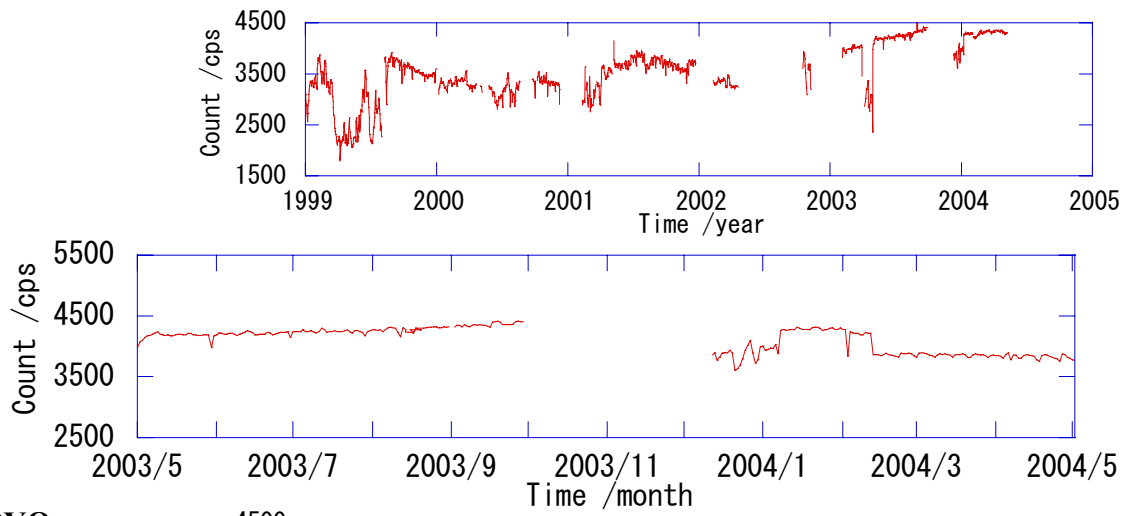
- 1) 東京大学大学院理学系研究科：東海地方におけるラドン観測 (XX)，連絡会報，343-344，70 (2003)。



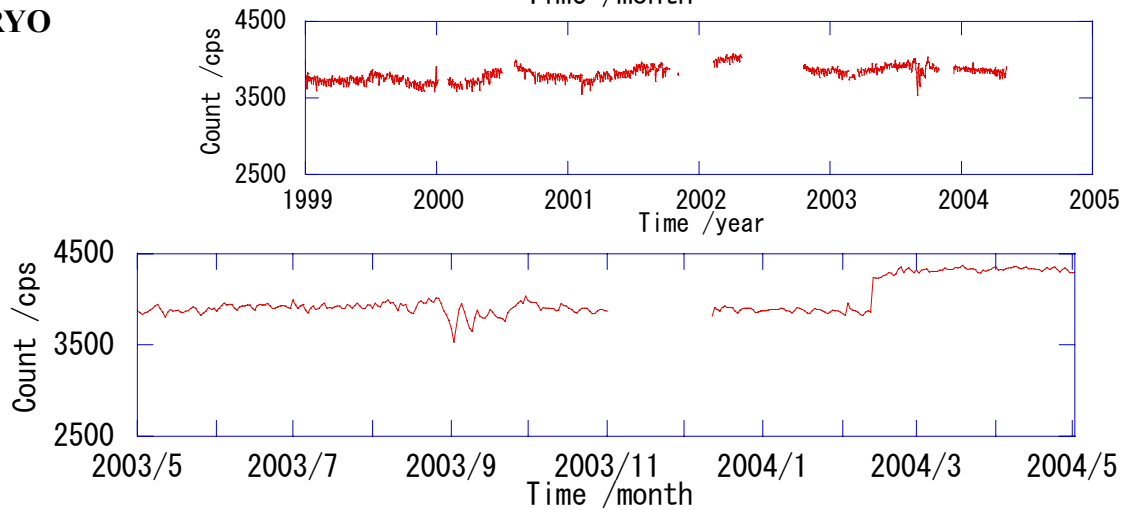
第1図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig.1 Locations of geochemical observation sites in the eastern part of Tokai district.

YSD



RYO



第2図 YSD、RYOにおける地下水のラドン濃度変化

Fig.2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at YSD, RYO. The data are 24-hour moving average value.